

関連項目：教育活動プラン①

児童が活躍できる場を積極的に設定し、承認・賞賛の機会を増やす

目的

自ら主体的に考え、行動する児童の育成を図るため、学級や学校全体の中で、自分たちで考えて取り組む活動の場を積極的に設定するとともに、活動後においても教師や子ども同士で承認・賞賛する機会を設定し、自己有用感や自尊感情を高められるようにする。

内容

● 児童の活躍の場の設定

本校では昨年度より、6年生のリーダーシップや主体的に活動に取り組む力を育てるために、縦割りによる異学年交流活動を行っている。

本年度は、特に、活動のねらいを明確にし、教職員もねらいをしっかりと理解した上で、児童の活動に助言や支援を行えるようにした。また、下級生にも事前事後指導を十分に行うことで、上級生へのあこがれを感じ、自らの可能性についても感じるようになるようにした。

6年生は、リーダーとして自分たちのことだけでなく、一緒に活動する下級生のことも考えて計画することで相手意識をもって考えるようにした。教師は児童の活動を見守り、指導を減らしていくようにした。自分たちが計画した集会活動を実践していく経験を積み重ねていくことで達成感ややりがいを感じることができると考えた。



＜縦割り班清掃の前に分担の打ち合わせをする児童＞

活動後はふり返りの時間をもった。6年生は必要であれば改善を行い、もう一度同じ内容で取り組むこともあった。下級生は活動がうまく進むように自分たちの取り組み方の改善について考えた。

● 賞賛の機会の設定（「にこにこの実」カードを活用して）

児童の活動をしっかりと賞賛し、その行動を学級や学校全体に広めていくために、「にこにこの実」カードを使った取り組みを行った。学校や学級のためにがんばっている友だちのよさやめあてに向かって一生懸命努力している友だちを見つけてカードに書いて、教室掲示や児童玄関の掲示にして紹介した。帰りの会などの時間でその友だちのことを紹介し、賞賛の場を設定した。

異学年交流活動でも、大なわとび大会に向けての練習などで、下級生をやさしく気遣う上級生の姿や一生懸命練習に取り組んでいる下級生の姿などを見つけて、「にこにこの実」カードに書いて児童玄関に掲示した。カードがたくさんたまと、カードを整理し、それぞれの書いてもらった児童に渡した。そのことで教師や自分と同じ学級以外の児童から賞賛され、自己有用感や自尊感情を高められるのではないかと考えた。実際にやってみると、下級生から6年生に対する感謝の言葉やがんばりを認める内容のカードがたくさんあった。



＜児童玄関に掲示したにこにこの実＞

成果

6年生は異学年交流を主体的に企画・運営する活動を通して、自分たちでできることは自分たちでやろうとする児童が増えた。また、1年生から5年生も活動に向けて、自分たちにもできることはないかと考えたり、6年生が集会を進行しやすいように静かに話を聞く、素早く行動するなど考えて行動したりできるようになった。

また、活動後、教師からの励ましや児童からの「にこにこの実」カードを受け取り、満足そうにしている姿が見え、自己有用感ややりがいも感じることができているのではないかと考えた。